

# 海外研修報告書

研修者： 特別養護老人ホーム 敬愛ホーム 生活相談員 深澤 美砂子  
小規模多機能施設 ウェルケア国立 生活相談員 星野 千尋  
高齢者グループホーム ウェルケア立川 3階管理者 北村 佳代子

## ✦ 日程

旅程： 平成18年2月8日～2月12日

平成18年2月8日 日本発 (ロスアンゼルス 2月8日 7:30着)

平成18年2月9日 研修1日目

- ・ 第一施設見学 Plymouth Village
- ・ 第二施設見学 Christian Heritage Care Center
- ・ 第三施設見学 Crestview Convalescent Hospital

平成18年2月10日 研修2日目

- ・ 第四施設見学 Keiro Retirement Home

平成18年2月11日 ロスアンゼルス発 (日本 2月12日 15:10着)

## ✦ 内容

1. アメリカの高齢者福祉について
2. 第一見学施設 Plymouth Village
3. 第二見学施設 Christian Heritage Care Center
4. 第三見学施設 Crestview Convalescent Hospital
5. 第四見学施設 Keiro Retirement Home
6. 日本の施設とアメリカの施設の違い
7. 研修を終えて

# 1. アメリカの高齢者福祉

## ❖アメリカの高齢者

米国勢調査局によると2000年のアメリカ総人口は、約2億8142万人といわれそのうち12.4%を65歳以上が占めており、過去と比較すると高齢化が進行している。平均寿命は女性が79.4才、男性が73.9才となっており、この高齢者の10人に8人は介護を必要とせず自立した生活を送っている。

また日本の57.4%の高齢者が配偶者以外の家族と同居しているのに対し、アメリカの高齢者は13%と格段と低い割合となっている。これはアメリカの自助の精神により、子供との同居を望まない風潮によるものと思われる。

## ❖国の支援制度

公的な介護保険は存在せず、主に2つの公的医療保険制度より給付を受けることが出来る。

メディケイド…低額所得者のための国民医療保障制度。現在では介護サービスに関する公的財源の中心となっている。低額所得者向けである為、収入の一定額以上は介護に使用しなければならず、資産の制限も課せられる。

メディケア…65歳以上の高齢者を対象とした、連邦政府運営の医療保険制度。長期の介護については対象外であり、給付期間に制限がある。(3ヶ月)

## ❖アメリカの高齢者福祉施設

アメリカの高齢者福祉施設は入居者の健康状態により大きく4つに分けることができる。アメリカではその施設のライセンスにより入居できる利用者が細かく決まっており、日本のように自立されている方と重度の疾病を持っている方など一緒に生活することが出来ない。

インディペンデント・リビング(independent living)…健康で自立した生活を営む高齢者が対象。

アシスティッド・リビング(assisted living)…何らかの生活援助を必要とする人たちが対象。

CCRC(continuing care retirement center)…健康時から要介護状態になった時まで継続して同じ居室や同じ敷地内の居室に住みつづけることができる施設。終身介護施設。

ナーシング・ホーム(nursing home)…介護専用の施設。

自立	軽度の要介護	重度の要介護	医療が必要
リタイアメントハウス			
インディペンデント・リビング			
	アシスティッド・リビング		
		ナーシングホーム	
			病院
CCRC			
自宅			

## 2. Plymouth Village



住所：900 Salem Drive Redlands, CA 92373

- ✦ Residential Living (高齢者住宅)
- ✦ Assisted Living
- ✦ Skilled Nursing
- ✦ Memory Support (The Grove)
- ✦ Home Care (訪問介護事業)

### 【Residential Living (高齢者住宅)】

広大な敷地の中、生活される方々のはのんびりと生活をされており、杖やシルバーカー等を持ち散歩されている方を多く見かけた。



【カート】

敷地内を車やカートで送迎も行っている。



【高齢者住宅】

高齢者住宅からアシストリビングへ移る事（荷物の処理、移動に対してのストレス等）が大きな問題になっている。

毎日バスやご自分の車で街に買い物に出かける利用者が多く、中には教会やレッドランド大学へ講義を聴きに出かける方もいたり自由に生活をされている。この様に入居者を地域の中に出すことにより、施設の宣伝効果にもなるとのこと。

外出中の事故や運転能力の低下（認知症・ADL）が一番の問題となっている。

家族も2週間以内なら宿泊可能である。

入居はどの人種の方でも料金を支払うことが出来れば可能であるが、学歴審査がある。

### ✦食事

食事は食堂があり、皆さんそこに集まって食べられる。食事は自由食となっており、数あるメニューの中から好きなものを選べるようになっている。

朝食 7:30~8:30      昼食 11:45~13:00      夕食 17:00~18:00



## メニュー例

昼食：サンドイッチ、サラダプレート、ピザ 等

夕食：ステーキ、チキン、フライ、ローストターキー

## ✦ コンシェルジュ

6週間前から開始された新しいプログラムであり、入所されている方の相談業務を行う。

### 【Memory Support (The Grove)】



定員 11名の認知症(アルツハイマー型認知症)の方が生活をされている。

食事以外のスケジュールは決まっておらず(大きな行事等は除く)生活されている方は自由にのんびりと生活をされていた。

ダイニングの隣には広いリビングがあり、ソファやテレビ、ピアノがありゆったりとくつろげる雰囲気が作り出されている。

アニマルセラピーの一つとして、鳥が飼われていた。



食事は調理された食事が運ばれダイニングで食べる。時折シェフを呼び、普段と違った食事を提供している。



居室は1～2人部屋で、思い出のある調度品や写真で溢れている。

トイレ、シャワーもついており、好きな時間にシャワーを浴びる事が出来る。



各居室の入り口には表札ではなくご利用者、ご家族の写真や思い出の品が入ったメモリーボックスが設置されて、認知症の方でも自分の居室が解りやすい様に工夫がされている。



施設の庭をフェンスで囲う事によりご利用者は自由に庭へでて散歩や外気浴を楽しむ事ができる。  
玄関にも施錠し対応している。

### 【Skilled Nursing・Assisted Living】

アシストリビング（要支援レベルの方）とスキルドナーシング（特別養護老人ホームレベルの方）の方が生活されており、玄関にはご利用者がクラブ活動などで作った物が販売してある。  
Skilled Nursing ではターミナルケアまで行っている。



アクティビティーを企画、運営する「アクティビティーディレクター」がおり、多種多様なアクティビティーを行っている。  
ディレクターは2名勤務しており、一人は自立支援を目的としたアクティビティーを担当し、もう一人は記憶を失った方のサポートをするようなアクティビティーを担当している。  
アクティビティーディレクターは月ごとに行事を作成し、数箇所大きく貼りだしてある。  
ビンゴ等アメリカを感じるアクティビティーもあった。

カレンダーは文字だけでなく絵を使う事で認知症の方でも理解できるよう工夫がされている。



居室は施設の居室とは思えない程とてもきれいであった。

ソファーやベッド、タンス等ご自宅で長く使われていた物ばかりで、施設ではなく『家』という印象を強く受けた。ぬいぐるみやご家族の写真を飾られている方が多く利用者1人1人の個性が活かされた居室であった。

居室にはトイレ、シャワーが完備されている。

【Assisted Living の居室】



【Skilled Nursing の居室】

Skilled Nursing 内には教会があり、自由にお祈りを出来るようになっている。





リハビリ設備も充実しており医師の指示の下、個別リハビリ計画に沿って実行している。

浴槽に入る習慣がない為、シャワールームが各居室に設置されている。



車椅子の方を対象とした特殊浴槽も設置されている。



Assisted Living の食堂ではテーブルクロスが敷かれ、ナプキンやスプーン、フォークが置かれおり、レストランの様な雰囲気を作り出されている。

施設内には所々に椅子やソファーが置かれ、入居者の小さな団欒の場所となっている。



【エレベーター内に設置されている椅子】

### 3. Christisn Heritage Care Centers



住所：257 Garnet Way, Upland, CA 91786

- ✦ 1F： Ortho Unit (外科的ケア)
- 2F： Skilled Nursing



- ✦ Assisted Living

【Ortho Unit (外科的ケア)・Skilled Nursing】

1階には外科的ケアが必要な方が入所されており、外科的療法・スピーチ療法・嚥下訓練療法が中心に行われている。1階には29ベッド、2階には41ベッド用意されており、1～2人部屋となっている。1,2階を合わせ定員は70名であるが、64名までしか入所できない。60～70歳代の方が入所されている。



室内は花柄の壁紙が使用され施設特有の「暗さ」は感じられず、家庭的な雰囲気演出している。また室内には花の香りが使用されている。



壁には季節を感じさせる装飾が施されている。  
(この時期はバレンタイン)  
各階にはテレビなどを見てくつろぐスペースも備え付けられている。



壁には大きくアクティビティーの予定が張り出されており、10時から様々なアクティビティーが行われている。

- (例)
- ・記憶刺激プログラム
  - ・絵やクラフト
  - ・映画
  - ・パズル
  - ・ゲーム
  - ・ピクニック
  - ・ビンゴ



アニマルセラピーとしてインコを飼っている。

また2階には美容室があり週に2回美容師が整容を行っている。(有料)

### 【アクティビティーを行う部屋】

居室入り口には「自分の部屋」であるという目印になるなじみのあるものを置いている。

ベットクロスも個人の物を利用し、家具、インテリアなど個々で自由に持ち込んでおり『自分の空間』を生み出している。



居室にはトイレ、シャワーも完備されている。



食堂は2箇所あり、介助を受ける方と自立されている方と別れている

(写真左：介助の方用 右：自立の方)

一般の食堂には隣接されている Assisted Living の入居者も利用する。

(Assisted Living の建物にも繋がっている。)



一般の食堂にはサラダバーがあり、毎日新鮮な野菜を食べる事が出来る。

また入居者の疾病に合わせて治療食も準備され、わかりやすいようにテーブルにプレートを置いて対応している。

2階にはリハビリ室も完備されており、  
医師の指示の下、多種多様な器具を用いて  
リハビリを行っている。



【Assisted Living】



Ortho Unit、Skilled Nursing の建物に隣接されており、何らかの生活援助を必要としている方々が入居されている。  
定員は80ベッド。

各個人メールボックスが設けられており、ここへ郵便物を入れ  
管理している。鍵がかかるようになっており、鍵は個人管理  
している。



居室は個室であり、何らかの問題が無い限り自由に家具を  
持ち込み、思い思いの空間を作る事が出来る。

食事は基本的には食堂にて食べるようになっているが、体調不良で  
食堂に行く事が困難な場合は、数日配膳してもらえます。

(食堂はOrtho Unit、Skilled Nursing の自立の方と共同)  
メニューはいくつか選択でき、サラダバーも毎日行われている。



アクティビティーも毎日企画されており、自由に参加できる。

(例) ・聖書クラス      ・運動クラス      ・外食      ・ビンゴ  
      ・買い物            ・映画            ・ゲーム

食事以外の日常生活(掃除、洗濯等)については、個々で行う事となっているが不可能な場合は  
有料で援助が行われる。

#### ✦利用者会議

年に1度入所者だけの会議が設けられ、その中で入所者の代表が決められる。代表は日頃何か問題や苦情が発生したときは個々に相談を受け、施設側(施設長)に申し出る役割を行う。

#### ✦合同職員会議

3ヶ月に1回、3施設合同職員会議が行われる。

## 4. Crestview Convalescent Hospital



住所：1471 S.Riverside Avenue Rialto, CA 92376-7798

#### ✦ Nursing Home

(車椅子・歩行器など何らかの障害がある方が生活する所)  
日本で言う特別養護老人ホームのような施設(175名)



#### ✦ Care Home

(比較的に自立されている方が生活する所)  
二人部屋(50~60名)が隣接されていた。



〔Nursing Home〕



伝統ある施設で、創立され数十年も経つ古い施設であった。もともと、病院だったということで、内装は少々病院を思わせるような造りで暗いような印象を受けた。

廊下に名前(・・・ストリート)を付け、広い施設でも迷わないような工夫が施されていた。





ガムやお菓子などの自動販売機が設置されており、自由にお菓子が買える状態であった。  
ガムもガチャガチャタイプで指の運動にもなり、何色が出るかワクワク出来るような楽しみをもつものであった。

お風呂場は倉庫化しており、アメリカはお風呂に入る習慣がないので、あまり浴室を使用していないとの事であった。



美容院も設置されており、曜日に指定はあるが、好きな時に美容が出来る状態であった。  
(シャンプー・リンスー・パーマ・セット・カット)

中庭があり、各居室から中庭に出れるようになっていたとの事であったが、中庭にでるより、外に出る事のほうが楽しみのようで、中庭に出ている方はいなかった。

少々扉が固く、地面がガタガタで整備不足の面も見られている。



居室は3人部屋で各居室にトイレが完備されている。

アニマルセラピーも行っており、鳥と魚を飼っていた。鳥は、食堂の部屋に大きな檻の中で飼われており、体が不自由な方でも食事の時に鳥のさえずりを聞くことができ、中庭にも巣箱があり、野生の鳥も見ることが出来た



施設周辺は、車の通りも頻繁で、ドアを開けたらすぐに大通りという場所に面していた。自由に外出できる状態であり、外側から侵入者を防ぐ為の頑丈な施錠はされていたが、内側からは、簡単に出来るようになっていた。



創立当初は、車の通りがなく、のどかな場所であったが、年を重ねるごとに、町が栄え車の通りが多くなってきたとの事で、アルツハイマーで徘徊がある方は、事故防止のため、このホームには入所することができず、又、このホームで発症され徘徊症状がでた方も、こちらで生活されることが難しく、職員の数を増やして対応したり、対応できない場合はアルツハイマー専門の施設に移られるということであった。

- ❖ 白人の職員が、黒人を見下した介護をしてしまったり、今まで、人種差別を受けていた、黒人がわざと白人の職員を困らせるような態度を取るなどの、人種差別の問題がアメリカでは少なくないとの事で、一般的に黒人の方が入れない施設も多いとの事であったが、この施設は、黒人や白人など色々な人種の方が生活されていた。黒人の方で、大きな奇声を出し、周囲を困らせている方がいたが、そういった、アメリカの事情・時代背景が問題になっているのではないかと思う。

職員のことを、とても大切にしている施設で、広い寮母室・広い職員専用の庭など完備されており、また、その年の優秀者を表彰し、そのプレートがずっと飾っているとの事。



【職員用の庭】



事故や病気など、職員に意識させるため、何日間事故や病気が起こらなかったかを、張り出し何日間か続くと、施設から表彰されるとの事。

2月はバレンタインデーということで、バレンタインの飾り付けがとても素晴らしく施されていた。また、リンカーンの誕生日ということもあり、所々に、リンカーンなどアメリカの有名人が描かれており、それを見ることで、2月と理解してもらおうのだと言うことであった。



10:00 AM Book  
10:15 Table Talk  
10:45 Limber Up  
1:00 Dinner  
2:30 Holiday Party with Yolanda  
5:5 Dominoes



アクティビティーも毎日企画され、廊下に大きく張り出されご利用者は好きなプログラムに参加できる。

### 【Care Home】



50名から60名の二人部屋

入り口を入ったすぐの場所に広いリビングで大きなテレビ画面を数名の利用者様で鑑賞されていた。



【廊下】



【リビング】



【居室】



【居室のトイレ】



【居室の入浴場】

ケアホームは、比較的意思決定が出来る方々のようで、お部屋も個性的であった。アメリカの人という感じで電光を使用し、とてもゴージャス感があった。とても、自由そうな印象を受けた。



施設のご好意で食事（5時）を頂くことができました。サラダがとても新鮮でおいしく頂きました。

## 5. Keiro



住所：325 South Boyle Avenue Los Angeles,  
CA 90033-3812

## 【歴史】

アメリカの日系社会のリーダーであり、日系の高齢者施設群を運営する Keiro の生みの親でもあるフレッド和田勇は、帰米1世で、ロスアンゼルスで野菜を中心としたスーパーマーケットで成功した。その後、戦後日本の復興に力を貸して、日本が国際社会に復帰するのを手助けした。戦後初めてスポーツ分野で日本選手がアメリカの大会で活躍するのを助けたり、東京オリンピック(1964)の誘致のために独力で中南米諸国を歴訪して票集めに成功したという逸話である。

日系の病院はすでに1929年からあった(Japanese Hospital of Los Angeles)。ボイルハイツに日系人ドクターのための研修施設という意味もこめてできた営利病院だった。普通の病院では日系人は研修できなかった。日系人は差別され排斥されていたから、日系人独自の病院が必要だった。その病院が内紛を起こして衰退していたのをNPO病院として再建したのが1961年で、フレッド和田勇らが理事になって再建に乗り出した。翌1962年にこの病院を売却し、City View Hospital を買い、病院の経営が厳しくり1983年に閉鎖。また日系一世のお年寄りが、身よりもなく困窮したり、白人のナーシング・ホームのなかでぽつねんとひとり寂しい老後を過ごしているのをみた和田勇たちが日系一世のための老人ホームを造ろうと発起してファンドレイジングしはじめたのが1967年で、これが1969年に「敬老ナーシング・ホーム」(87床)になる。1974年には「南敬老ナーシング・ホーム」(98床)、1982年には「South Bay Keiro Nursing Home」もオープンした。1974年には、ユダヤ系の老人ホームを買い取り、1975年に「日系引退者ホーム」(110床)にした。戦争前ボイルハイツは、ユダヤ系と日系人が主に住まう地域で、学校では日本人とユダヤ人がトップを争っているような地域だった。ところがメキシカンが入ってきて、ユダヤ人はみな西のほうへ移住していったので、ユダヤ系の老人ホームもノースリッジのほうへ引っ越していった。その施設を買い取った。その施設が老朽化したうえロスアンゼルス地震(1987年)で被害を受け、また地震のあと変わった市の耐震基準を満たすためにも全面建て替えることになり、そこで苦労してロスアンゼルス日系社会だけでなく、日本でも大規模なファンドレイジングをやった。フレッド和田勇やロスアンゼルス総領事、日系企業も努力して、特例的に寄付に免税措置をつけてもらって、日本でも大規模な募金をやり、この敬老リタイアメントホームが出来た(1989)。



【施設の壁に付けられているユダヤの星】

現在の Keiro Services はアンブレラ組織になっている。敬老ナーシング・ホームや敬老引退者ホーム、サウスベイ敬老などは、すべて独立したNPOだが、その理事になれるのは Keiro Services の理事だけだ(only statutory member is Keiro)。このようにして Keiro Services が、傘下にある諸施設をコントロールしている。

日系アメリカ人の60%は、日系人以外と結婚し(marriage out)。そして3世になれば、英語にも不自由しないし、わざわざ日本語を話す看護婦や医者のある施設や老人ホーム、ナーシング・ホームという Keiro Services の必要性も薄れる。

ボイルハイツの敬老の諸施設の周囲はすでにヒスパニックの人たちのすむ地域となり、日系人はほとんど住んでいない。いわばヒスパニックのコミュニティの中に敬老の諸施設が孤立して存在しているのである。またリトル東京周辺も次第に衰退して日系人のかつてののにぎわいはすでにない。日系コミュニティは、アメリカ社会のなかで次第にその輪郭を失いつつある。

(インターネット引用)

日系アメリカ人の5人に一人が65歳以上でこれは全米平均の約2倍と言われている。

現在の高齢者は、より高度な介護が必要な状況である。

85歳になるまで、高齢者人口の18.2%が看護ホームに入居、半数以上が自宅で介護が必要になり60%が移動や自分の身の回りのことに支障を来し、50%は痴呆症状が見られている。



敬老は、文化的背景を考慮して、使い慣れた言葉、価値観、アクティビティー、食べ物に考慮することで高齢者が快適な余生を送れるような場所を提供してきている。

### 【施設の特徴】



#### ✦アクティビティーセンター

主にビデオ鑑賞やカラオケ・体操などクラブ活動を行う場所  
(全施設より参加される)

外では、喫茶店を行っており小額でボランティアさん（日系人が主）が作った。ケーキなどを召し上がっている。それを、施設の資金に当て、ており、資金面・アクティビティー面でもボランティアが不可欠である。ボランティアを受け入れる際は、虐待等を防ぐ為犯罪歴は無か等調査をして受け入れている。



施設内には所々日本の物が置かれている。



## ✦ 寄付の木

寄付をして下さった方の名前をつけている。  
メダルの大きさ、色で寄付の大きさが分かる。

(いたるところに飾られていた)

公的医療保険から不十分な支払いによって、「敬老」は高齢者介護に要する経費を満たす為、年間 250 万ドルの不足額を調達しなければならない。又、労災保険や医療賠償責任保険高騰で「敬老」はこれまでよりさらに 100 万ドル必要となってきた。



施設敷地内全体に頑丈な鉄格子がしてある。  
利用者を出さないようにする為のものではなく、  
外部からの侵入を防ぐセキュリティーの為のものであるとの事。

日本では、考えられないような柵であった。  
又、色々な人種の人が仕事をしているため、必ず職員・ボランティアは指紋をとり、前科がないか調べている。



施設内に畑があり、利用者が畑の一部を購入し、  
家庭菜園・園芸を行なっている。  
出来た野菜で、利用者は漬物をつけたりしている。



好きな時間にゲートボールが出来るように  
完備されている。





日本庭園や池は、日本を思い出すような面持ちになっていた。

又、日本庭園には、瀧が三段階に流れており、一世・二世・三世と言う意味になっている。

池には、鯉が泳いでおり、利用者が餌をあげ、和まれている場面も見られた。

【日本庭園 世代】

池は、循環されており、ボランティアが掃除をしてくれている。

【KEIRO RETIREMENT HOME】

ベッド数：154床

自立者(アンベラートリー)

⇒火災の際、一人で逃げる事が出来る。  
アラームがなぜなっているのか理解することが出来る人。



✦部屋



部屋は赤を基調とし落ち着いた雰囲気であった。  
部屋は個室であり、料金が上がるが広い部屋も用意されている。料金を安くする為広い部屋を2人で住んでいる方もいらっしゃる。  
また居室にはトイレ、ユニットバスが完備されている。

料金は居室の広さによって変わるが、自己負担の方では\$1590、生活保護(SSI)を受けている方は\$917となっている。



【廊下】

又、ベッドやタンスなど何でも持ち込んでよいとの事であった。その他、トイレットペーパー、石鹸など完備されている。小さなキッチンもついており、お茶を沸かす程度のものであれば可能である。



【居室の様子】



【広いタイプの居室の様子】



洗濯は、コインランドリーが完備されており、食事は施設で提供されるものを食べたり、自分で好きな時間に作って食べることもでき、自由に過ごすことが出来るようになっていた。又食事の際は、館内放送を利用している



密室な為、ペンダント型のナースコールのようなものがライフラインである。

## ❖ 食事



食事は二種類用意されており、好きなほうを食べることが出来る。又、食べたくない場合は、外食などしても良いようになっている。自分で居室に持っていき食べることも可能である。

メニューは朝のみ RETIREMENT HOME と ICF とで異なる物が提供され、昼食、夕食は同じメニューとなっている。又 RETIREMENT HOME の朝食はビッフェスタイルとなっている。

## 【メニュー例】

### 朝食

ICF → オートミール・スクランブルエッグ・サラダ など

RETIREMENT HOME → ワッフル・パンケーキ・ハッシュブラウンポテト など

### 昼食

親子どんぶり・ロースビーフサンドイッチ・ビーフ焼きそば・冷やっこ など

ポテトサラダ・テリヤキバーガー・お浸し・うどん など

ミニケーキ・フルーツ・クッキー・アイスなどデザートもついている。

### 夕食

かぼちゃの煮物・餃子・焼き魚・おでん・豆腐・ベイクドチキン・チーズバーガー

チキンポットパイ など

## 【KEIRO NURSING HOME / SPECIAL CARE UNIT】

ベッド数：300床

何らかの介助が必要⇒火災の際、身体的に問題があり、  
避難が出来ない。



居室は病院のような作りであるが、お布団・カーテンなど決まったものを使用するのではなく、個性的なものを使用されていた。



【居室】



【トイレ】



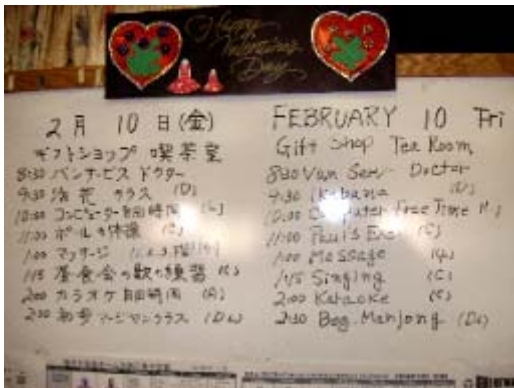
【廊下】

## ✦言語

ほとんどの方が日本語を理解することができ、実際に会話する言葉も日本語が多い。しかし日本語が理解できない方もいらっしゃるため放送、掲示板等は日本語と英語が併用されている。



【ICF 内の掲示板】



【食堂にあるアクティビティースケジュール】

## ✦お風呂

今までのどこの施設よりも、浴室がきれいで大きかった。



【ICF のお風呂】



【RETIREMENT HOME  
のお風呂】

## ✦アクティビティー

- ・ 教会 ・ 琴 ・ 俳句 ・ ゲートボール ・ ペン習字
- ・ ドミノゲーム ・ コンピューター
- ・ ボール ・ 映画 ・ ダンス ・ 編み物
- ・ ミュージックベル ・ パプリレストラン
- ・ クラフト ・ ソーシャルワーカー ・ マッサージ
- ・ 墨絵 ・ ハンドベル
- ・ ウォールマートとランチ ・ 英会話 ・ 陶芸 ・ 体操
- ・ テーブルゲーム ・ ピアノ ・ 民謡 ・ 三味線
- ・ ちぎり絵 ・ 読書会 ・ ヨガ体操 ・ 書道 ・ 百人一首
- ・ クラフト ・ マージャン ・ 着物ショー ・ 詩吟
- ・ キーボード ・ ハーモニカ



【ICF 内に掲示されている  
アクティビティーカレンダー】



【アクティビティールーム】



【ビンゴの様子】

その他の事業

KEIRO ADULT DAY CENTER 45名

KEIRO COMMUNITY EDUCATION

SOUTH BAY KEIRO NURSING HOME 98ベット

KEIRO INTERMEDIATE CARE FACILITY 90ベット

## 6. 日本の施設とアメリカの施設の比較

	日本	アメリカ
入浴	 <p>【リフト浴】</p>  <p>【機械浴】</p>  <p>【一般浴】</p>	   <p>【Plymouth Village】</p>   <p>【Keiro】</p>
	<p>湯船につかる文化がある為、大きな浴槽と、利用者に合わせた入浴方法がある。また入浴を楽しみにしている利用者が多い。 (敬愛ホーム)</p>	<p>【Crestview】</p> <p>日本と違い浴槽に入る習慣が無い為、各居室には浴槽が無いシャワールームが完備されている。数名で入浴できる大風呂もあるが、利用されている方は少ないとの事。敬老に関しては日系の施設である為、浴槽が備え付けてある。</p>



シンプルで個性に乏しい。



【Plymouth Village】



【Christian Heritage】



【Crestview】



【Keiro】



個性的で雰囲気大切に空間を作り出している。

写真を飾っている方が多い。



【壁には利用者が作成した作品が広がる。】



【職員が作成した作品】



【居室には思い出の作品が飾ってある】



【Plymouth Village】



【Crestview】



【Keiro】



【Christian Heritage】

飾りつけがとても豪華で綺麗であった。

装飾

その他

✦ アニマルセラピー



今回見学した4施設ともアニマルセラピーとして鳥を飼育していた。

✦ アクティビティー

どの施設にも「アクティビティーディレクター」が配属されており、多種多様なアクティビティーが提供されている。アメリカでは法律で義務付けられているとのこと。

## 7. 研修を終えて

アメリカ研修を行なわせていただき、感じたことは、規模が日本とは全く違うというように思いました。敷地が広く、お部屋が広い、と感じました。

アメリカは、日本と違った区分がされており、日本の施設（特養・グループホーム・老健）にたとえて見ることが出来ませんでした。全く別のものとして、新鮮な気持ちで見学することが出来ました。

又、多民族国家ということで、色々な人種の方が入所されていらっしゃいました。

日本では、言葉が通じない職員が働かなんて考えられませんが、アメリカは、色々な人種の方が働かれています。言葉・文化の違いなどの問題はあっても、福祉の心は、言葉が通じなくても、どの国でも共通なのだと思います。

その他、アメリカは日本より進んでいると思っていましたが、当施設のほうが優れていると自信になるようなこともあり、又、アメリカの施設は装飾がとても鮮やかで個性的（その人らしさがでてい）所を見習っていかうと感じました。

最後の施設（敬老）でいろいろな利用者様とお話することが出来ました。

マージャンをされる方・買い物を楽しまれている方・鯉にえさをやる事が日課で鯉がかわいくて仕方ないという方。しっかりされているが、家族と一緒に住む事が出来ずに入所されていらっしゃいましたが、自分なりに楽しみを見つけ生き生きと過ごされていました。

その他の施設は質問しても言葉が判らず。施設の方の説明の内容がわかるよう英語を少しでも勉強していけばよかったと反省いたしました。とても、勉強になり良い研修をさせていただきましたありがとうございます。

【特別養護老人ホーム 敬愛ホーム  
生活相談員 深澤 美砂子】

今回の研修で4箇所の施設を見せていただき、まずはその広大な土地にいくつもの施設が併設されていることに驚きました。同じ敷地にある為、介護の程度に併せて入居施設を変えていくだけでよいというのは、環境を大きく変化させずに済むよいシステムだと感じました。見学していく中でも、「以前いた施設の友達に会いに行く」「隣の施設に入居している妻の介助をしに行く」という方にお会いでき、このような人との繋がりも大切に出来る環境が暖かく感じました。

また、日本のグループホームで毎日入居者の皆さんと料理や洗濯、掃除など認知症進行予防の一つとして役割をもって頂き、毎日を過ごしている私にとって、アメリカの施設ではそのようなことがサービスとして提供されているということがとても印象的でした。その分アクティビティのサービスが充実しており、好きなものを自ら選択し楽しむ事で、老化を防ぐ対策がとられていました。施設内の雰囲気も明るく、壁紙、香りにこだわり「居室も個々好きなベッドカバーに壁や机の上には家族などの写真が多く飾られており、「楽しく、快適に暮らすことができる住処」がそこにありました。積極的に居室を見せてくださった女性に、「素敵なお部屋ですね」と声を掛けたときの笑顔がとても印象的でした。

今回違う文化を持つ国の福祉に触れる機会を与えてくださり、今後業務に当たる上で非常によい経験となりました。

【高齢者グループホーム ウェルケア立川  
3階管理者 北村 佳代子】

今回のアメリカ研修で驚いた事は、アメリカの広大な敷地です。その中に利用者の状態にあった施設が併設されています。利用者に合った施設でケアをする事により、介護での目標が立てやすく、ご利用者も施設での生活を自由に過ごされていました。

高齢者住宅のご利用者は、自由に外出をされ買い物や教会、大学の授業を聞きに出かけられる方もいるとの話を聞きました。又、食事やクラブ活動等も数ある中からご利用者自身に選択をしていただき、好きなものを食べ、好きなクラブに参加が出来、ビンゴやオークション等のアメリカらしさを感じるクラブ活動も数多くありました。

ボランティアの方の参加も多く、週に1回開催される喫茶店ではボランティアの方の手作りケーキと紅茶、コーヒー等を皆さん大変楽しみにされていました。その他多くのボランティアの方に支えられ施設が成り立っているとの話がありました。

認知症の方が入所されている施設(グループホーム)やナーシングホーム(特養)では「危ないから職員が付き添う」のではなく、フェンスで囲む事により自由に中庭を散歩ができ、ご利用者が各階を行き来できる様な環境が整備されていました。

また、どの施設でも各居室や扉(メモリーボックス等)にご利用者の個性が活かされていました。居室には、ご利用者が長年使っていたタンスやソファだけでなく、ご利用者が大切にされているものやご家族の写真、ぬいぐるみ等が飾っており、施設の居室ではなく「家」という印象を強く受けました。

各施設共にご利用者の生活がより良いものになる為は、ご利用者の「自由」「自己決定(選択)」「やすらげる環境」作りを行っていました。ご利用者が「施設」ではなく「家」として生活できる人間関係や環境作り、地域との交流を行って行きたいと思えます。

アメリカと日本では環境や法律など違いが多くありますが、「ご利用者のより良い生活」「ご利用者の笑顔」はアメリカと日本、共通の目標です。今回のアメリカ研修で学んだ事を今後の施設、地域活動に活かしていきたいと思えます。

【小規模多機能施設 ウェルケア国立  
生活相談員 星野 千尋】

